

令和 4 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ 伊藤 信博
氏 名 伊藤信博

研究期間 令和 4 年度

研究課題名 名古屋造形大学所蔵石井染織所染織型紙研究とジャポニスム

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	伊藤信博	国際コミュニケーション学部	教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

明治 24 年に創業された石井染工所が名古屋造形大学に寄贈した染織型紙 23,000 強の分類・分析と西欧美術館等所蔵型紙との比較研究を行う。そして、この比較研究から、西欧の型紙収集が盛んに行われた日露戦争前後の西欧所蔵型紙との共通項を探り、人類共通の歴史的文化遺産の保存や研究の発展を問う。特に日本の美（明治以前）と西欧の美に関する観点の相違をさらに詳細に明らかにすることで、西欧で認知される美術品としての染織型紙の価値を再評価し、文化として形成される価値観誕生の歴史研究を行うことを目標とする。なお、今年度四月から、フランス・アルザス地方におけるジャポニスム研究会を立ち上げ、4 月後半から実行することで、日本の型紙がどのように西欧のジャポニスムと関連があるかを明らかとする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

- ・石井染工所所蔵型紙の文化的意義やその価値、分類と保存や石井コレクションの写真撮影とデータベース化の準備、西欧の美術館に所蔵される型紙との比較研究の継続
- ・絵写本や版本表装に型紙のデザインが使用されており、その比較研究の実施
- ・絵写本・版本の表装文様や染織型紙文様の文様別リスト作成

以上から、名古屋に残る歴史的文化遺産に焦点を当て、型紙を文化として形成する価値観高い美術品として認知する研究を実行する。なお、ギメ美術館（パリ・東洋美術館）から依頼され、渡仏の際にギメ美術館において、クリシュナ・リブー寄贈コレクション 106 点の型紙のうち日本のものは 4 点とされてきたが、全て日本の型紙の可能性を示唆し、調査依頼が来たため、5 月の渡仏の際に調査を実行した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

この研究テーマに関連して本年度に申請していた「TOSHIBA grant」(アルザスにおける日本コレクションプロジェクト、ストラスブール大と共同研究)は、採択されなかったが、科学研究費、挑戦的研究(萌芽)「染色型紙文様研究からみたジャポニスムの発展と日本の文化継承」は採択された(伊藤が主研究者)。

一方、名古屋造形大学の移転のため、石井コレクション調査は実現が不可能となった。そこで、研究の方向性を絵写本や版本表装に型紙のデザインの比較研究や表装文様や染織型紙文様の文様別リスト作成、2022年5月に調査したギメ美術館クリシュナ・リブー寄贈コレクション文様分析を中心に行った。

先ず、ギメの寄贈コレクションは108点、およびギメ図書館にも所蔵が別に30点あり、現在詳細な分析を行っているが、すべて、日本の型紙であった。そのほとんどが明治以降に制作された植物文様が施された型紙であった。

すでに分析したフランス・ストラスブール市立版画館、パリ装飾美術館にて調査した300点強の型紙のモチーフの内200点弱が植物で、自然を描くもの(波や川、山など)も14点と確認されていることから、日本の文様収集の中心が植物を描いたものであったことは確実である。そして、1894年に制作されたルーブル美術館蔵の刀の鍔コレクション「gardes de sabre」(林忠正寄贈品)カタログの鍔文様も植物が中心であった。

現在までの調査で、石井コレクションとストラスブール版画館およびパリ装飾美術館、ギメ美術館の型紙を比較すると、彫刻技術は突き彫りが一番多く、次いで錐彫りや、突き彫りと錐彫りの二つの技術が使われているのが多いという点において共通点も確認できた。来年度は科研費でストラスブール美術館の日本コレクション(型紙、鍔、磁器など)を調査予定であるが、カタログからは植物文様が多いことは明らかで、今後は表装文様も含め、植物文様収集とジャポニスムの影響関係を明らかにして、西欧と日本の文化交流を考察していく予定である。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①ジャポニスム	②型紙	③鍔	④文様
⑤表装文様	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

「西欧の染色型紙受容とジャポニスム」(フランス語)、9頁、「日本における知識伝承」(2022年の学会による報告書、2023年3月発行予定)

「日本の美」2023年5月、ツール大学での発表(国際セミナー「フランスと日本の法、地方、テロワール、ガストロノミー」)

2023年再度「TOSHIBA grant」に「アルザスにおける日本コレクション調査」を申請予定